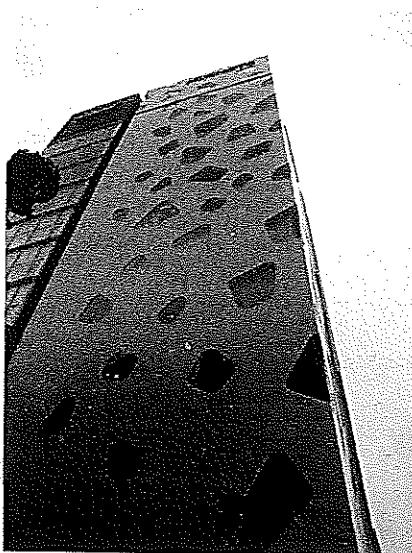


## ウォークラーリの感想

10n1022 王きん 坪井ゼミ

5月29日にウォークラーリが行われた。10カ所の名建築物をみて、もっとも記憶に残ったのは佐々木睦朗構造計画研究所が設計したミキモト銀座2丁目ビルであった。

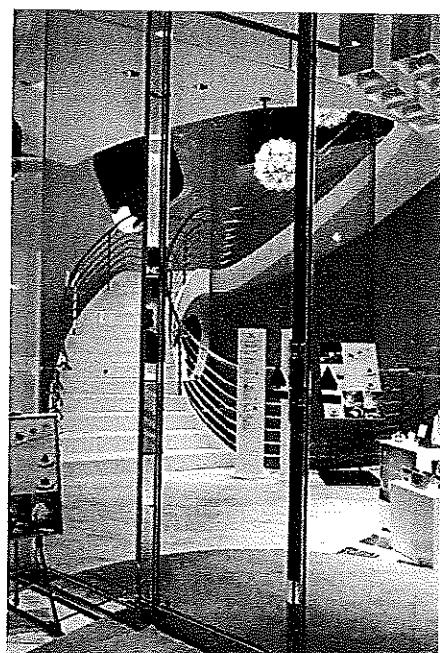


地上9階で地下1階、鋼板コンクリート造の店舗用のミキモトビルを初めて見たとき、資格的な衝撃は激しかった。まずこれは普通な建物じゃないと分かった。壁側に窓の代わりに、いくつかの曲線で囲んだ窓が不規則な並び方で、美しい外壁を作っている。ピンクっぽいのやわらかい色が人に温かいイメージを与える。入り口で、横から見ると、壁の厚さが分かった、鋼板2枚にコンクリートを入れた壁以外に、支える柱などは一本もない。とても不思議に思ったのはこんなたがいビルは柱なしでどうやって安定を維持できるのか。

今回は導入ゼミであると同時に僕たち一年生初

めて本番に町で建物をみた。今回のウォークラーリがもたらしたのは建築に関しての勉強意欲と熱意である。建築物が美しいとか素晴らしいなどを思うのが大事なことに違いない。いくつかの建物をみたあとに、建築は文化、場所に繋がっていることが分かった。何に使うか、どこに立っているかを考えずに、建築はできない。総合デザインも設計する人に高いレベルな文化性、論理観、教養力と表現力を求めている。一見関係性の乏しい学問だが、実は材料や工法などの建築技術だけではなく幅広い周辺学問とかかわっている。

近代科学技術の急速な自己発展力の得た社会で建築を建てたいならば、まずは自分を武装することが必要だと思う。今まで経験してきたことも感動を受けたことも生かして、その設計に感情を注ぐことが建築士の仕事の一つであるだろう。ウォークラーリで僕が勉強になったのがまだまだ幼いだが、建築をやりたいひとの決意とプライドだ。法政で基礎を固めていつか



社会人になって、自分もこんな人を感動させる建物を建ててみたいと思った。  
建築を絶対あきらめないで頑張って行きたい。

# Walk Rally

坪井セミ

10N1023 大竹将弘

ウォークラリーに参加して、まずさまざまな建物のみならず、今回は有楽町・銀座辺りの街の雰囲気を味わえて、非常に楽しかったです。

有楽町駅の近くの東京国際フォーラムは、ガラス張りの部分とコンクリートの建物の2つの部分で構成されていて、ガラス部分には2本のそんなに丈夫そうにない柱があるだけで、あとはすべてコンクリート部分で建物を支えて建っていると聞いてそういう発想もあるのかと思いました。

国際フォーラムに入ってすぐ右側にあった木製の壁の部分とガラスとの融合がいい感じになっていました。

また形が、すぐ近くにある電車の線路に沿って曲線上の形をしているので土地の面積を最大限利用していると思いました。

ガラス部分のスロープ付近の柱等にホコリがたまっていたが、実際に掃除はどうしているのか気になりました。

東京国際フォーラムは、スロープで上がったり、下がったりできて見学する上でとてもまわりやすく面白かったが、実際に何度も使う人は使いやすいのかなと思いました。ガラス部分は吹き抜けで透明感があって空間をとても贅沢に使っていると思いました。ウォークラリーの日は、雨模様でしたが晴れの日にも行ってみたいと思いました。

銀座の街はきれいに碁盤の目の形をしていた。

ミキモト銀座2丁目ビルは、窓の形がそれぞれ1つずつ違った形をしていて、建物の色合いがとてもきれいでした。

デビアス銀座ビルは、建物が曲線を描いていて面白かったです。

銀座は、長方形のハイブランドのお店の建物が多い気がしました。

和光の時計塔のあるビルは昔の重厚な建物で趣があつてよかったです。中にも入ってみたいと思いました。

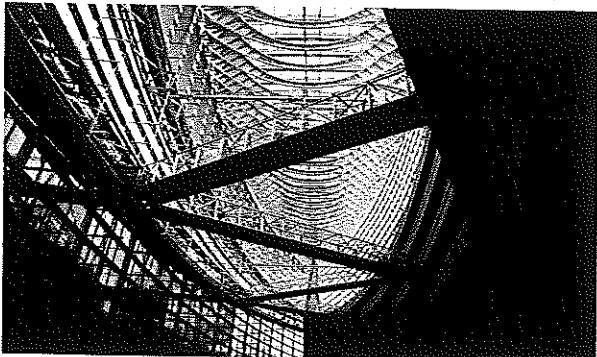
ソニービルは、半階ごとにフロアがあつて、さらにそのフロアの真ん中に段差があり、ビルの中に4つのフロアができているみたいで、上階から回りながら下っていくというフロアの構成が面白いと思いました。購買者の対象が似ているショップがこのような構成のビルに入ると、購買者は、下りながらゆっくりと売り物を見れますし、店側は、立ち寄るお客様が増えるような気がしました。今回中銀座カプセルタワーや静岡新聞社のビルなど時間の関係で行けなかつたところも見に行きたいと思いました。また東京のいろいろな建物・街を見に行きたいと思いました。

## 5月29日 建築Walk Rally

10n1024 坪井ゼミ 大塚 康祐

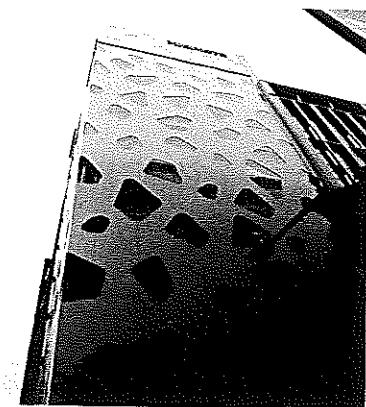
この日、僕らのゼミは有楽町駅に集合、東京国際フォーラムを見学し、銀座の街中の有名建築を見て歩くというコースでした。

最初に行った東京国際フォーラムですが、まず入った瞬間に広がる巨大な空間には驚かされ、スロープのように最上階から下ることのできる仕組みに大変興味が沸きました。またここでは、坪井先生から構造の説明やどうやって耐震しているかなど興味深い話が聞けました。



天井のイメージは恐竜な肋らしいです。坪井先生がこの建物は日本で一番くだらない建築とおっしゃったのは面白かったです。

次に僕らが行ったのは銀座の街でした。銀座の街は五目目状に区画されており路地がたくさんあり歩き甲斐がある街でした。そして、銀座らしい高級ブランドの有名な建物をたくさん見ました、やはり高級ブランドだけあって建物も高級感が漂うものばかりでした。見ていった中でも僕が特に興味がもてた建物はソニービルでした。この建物は特に内部がすごく、螺旋状に各ホールを下るという発想は自分には真新しく非常に勉強になりました。銀座の街の建物はどれもきれいで良かったのですが、できれば夜にライトアップされた姿もみてみたいと思いました。

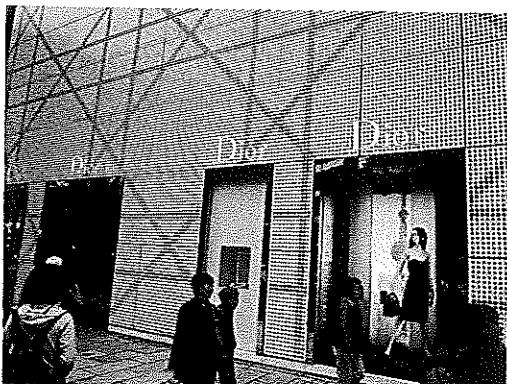


ミキモト銀座二丁目ビル  
天気が良い日に見たかったです。



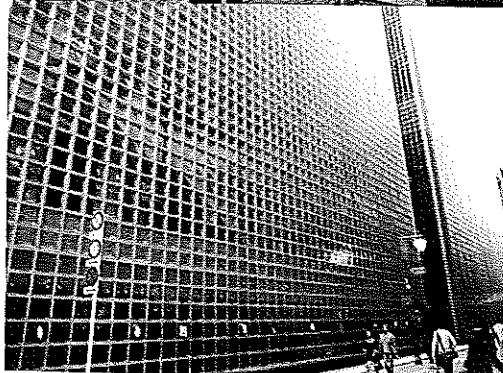
和光

銀座といったらこの建物、近くで見るのは初めてでした。なにか引きつけられるものがありました。



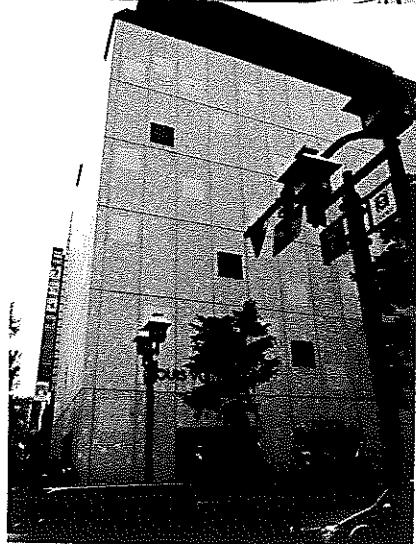
Dior

近くで見ると面白いデザインをしていました。



エルメス

さすが高級ブランドといった風格でした。



ルイ・ヴィトン銀座並木通り店

暗くなりライトアップされるときれいに見えるそうです。

この他にもこの日行けなかつたのですが、黒川紀章さんが手がけた中銀座カプセルタワーなど行ってみたいと思いました。

最後にこのウォークラリーに参加し、まだまだ東京という街は奥が深く興味がかなり沸く面白い街だと思いました。これを機に自分でもいろいろ有名建築などを見て回り自分の感性をどんどん磨いていきたいと思います。この企画を計画して下さった TA の方達や坪井先生に感謝したいです。ありがとうございました。

## Walk Rally を終えて

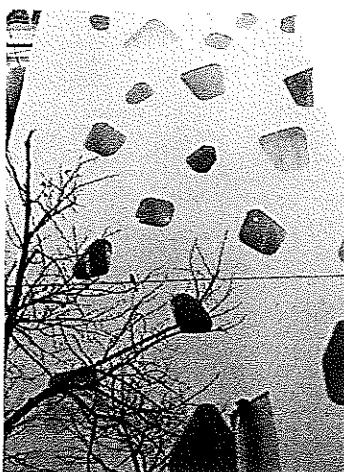
10N1025 大橋崇文

まず始めに国際フォーラムに訪れた。敷地に入るなり木々が立っていて、上を見ると葉っぱで日光が遮られ、少し薄暗い空間が表現されていた。地面は石のタイラできていた、その上に角のない滑らかな大きな白い石が置いてあつたり、また、石が輪の形に並べられたりとなんだか日本庭園をイメージさせられるような空間だった。周りにある店は割とひっそりとしていて、その静けさと薄暗さがまた「和」の雰囲気をかもしだしていて、私はものすごくその空間が気に入った。ぜひまた行きたい。

中に入ると巨大な壁一面ガラス張り、上を見るといくつかの橋が通っており不思議な感覚を受けた。進むといろんな最新機能の機器を発見。本当に近未来的だ。話によると、あのガラスの壁は風圧や地震のことも考慮されておりつくるのになかなか骨が折れるのだと。さらに素材が上からガラス、石、木という組み合わせで、これもなかなかつくるのが難しいらしい。しかも、外形が船のイメージであった。なぜ船なのか。やはり国際フォーラムという名前だけあって広い海原を越えていろんな国と交流するといったコンセプトなのだろうか。

次に私たちは銀座に訪れた。やはり銀座の街は高級感があふれていて圧倒された。それに、紹介してもらった建物はどれも凄くユニークだった。日本は本当に自由に建物をデザイン、設計できる場所なのだと改めて認識できた。

今回、ウォークラリーをしていくつかの見ごたえのある建物をみせてもらったわけなのだが、かなり自分の中での建築物に対するイメージが変えられた。それは、私たちの住む場所が巨大な芸術作品として、そこに存在するのを目の当たりにしたこと、自分の中での建築デザインという観念がかなり具体的なものとして浮かび上がってきたのだ。だから、今回のウォークラリーは自分にとって非常に価値のある経験になったのではないかと思うばかりだ。



## ウォークラリー後のレポート

10N1026 大森 悅平

### ■概要

2010年5月29日

JR有楽町駅～銀座周辺にある建築の見学

### ■主な見学場所

東京国際フォーラム（1966年、ラファエル・ヴィニオリ）

ミキモト銀座2丁目ビル（2005年、伊東豊雄）

デビアス銀座ビル（2008年、光井純）

和光（1932年、渡辺仁）

メゾンエルメス（2001年、レンゾ・ピアノ）

Dior銀座（2004年、乾久美子）

ルイ・ヴィトン銀座並木通り店（2004年、青木淳）

ニコラス・G・ハイエックセンター（2007年、坂茂）

中銀座カプセルタワー（1972年、黒川紀章）

静岡新聞社・静岡放送東京支社（1967年、丹下健三）



### ■感想・考察

当日は小雨の降る中でのスタートだった。1番最初に向かったのは東京国際フォーラム。ここには何度か行ったことがあったが、建築の構造などを気にしてみたことは1回もなかったので、はじめて知ったことがいくつかあった。まず、建築全体が船のような形をしているということだ。次に、この建築は日本初の国際公開コンペによって設計者が決まったということだ。つい十数年前まで国際コンペをしていなかったということに少し驚いた。

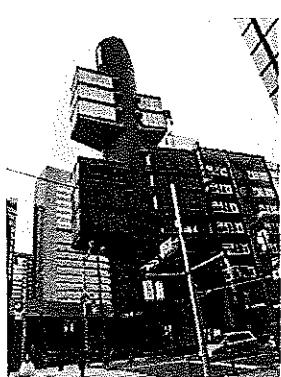
次に行ったのは、ミキモト銀座2丁目ビルだ。この建築の構造設計は佐々木陸朗構造計画研究所が行った。このビルには柱がない。その代わりに外壁がとても厚くなっていた。こうしたことから、構造的には造るのが大変だったそうだ。外観は窓の形だったり、外壁が平たんだったりと特徴的であった。ちなみに中ではシャンデリアが上下していた。

銀座を歩いているといろいろな特徴のある建築に出会う。見学場所になっていたところばかりだが、外観の歪みが特徴的なデビアス銀座ビル。周りの建築とは一味違った重厚な雰囲気のある和光。外壁がガラスブロックで出来ていて、何階建てなのか分かりづらいメゾンエルメスなど、さまざまな建築を見



て歩いた。歩いていて自分で気付かなかったことがあった。それは、銀座には電柱や電線が全くないということだ。これらはすべて地下に埋まっている。これによって特徴的な建築は際立って見えるような気がした。こうしたことはまだ日本全体には広まっていないそうだ。私の知っているのは、千葉県の浦安市ではこれを行っているということだ。やはり、きれいな街並みにするにはできるだけ電柱など見えないほうがいいのだろう。

銀座の通りで一番印象に残った建築は、ニコラス・G・ハイエックセンターだ。一見普通のビルなのだが、中に入ると全く普通ではなかった。なぜかというと、各店舗に1機ずつエレベーターが付いているのだ。つまり行きたい店に行こうとすると、その店のエレベーターに乗ることになる。それをうまく利用して、各店はエレベーターの中まで自分たちの店のようにディスプレイしていた。しかもこのエレベーターは上から吊るされているのではなく、下から持ち上げられるように上昇していく。こんなエレベーターは今まで見たことがなかつたのでかなり印象的だった。さらに2階の1部などは下からの支えが全くなかった。構造の面から見てもこの建築はすごいのだろうというのを感じた。



銀座のにぎやかな街並みをぬけて次に向かったのは静岡新聞社・静岡放送東京支社だ。この建築の建っている場所は、道と道に挟まれ三角形の形をしている。こうなっていると普通に建てるのはどう考えても難しいだろう。ただそれを逆手にとって、こうした印象的なデザインの建築を造ったというのはすごいと思った。1階部分を中心の軸となるものだけにしたり、何階と何階の間なのか分からぬがわざと隙間を造ったりととても印象に残った。

最後に行ったのは中銀座カプセルタワーだった。この建築は黒川紀章が造ったと聞いていたので目立つようなところにあるのかと思っていた。だが実際行ってみると、高速道路のすぐ脇にあってちゃんと上まで見ようすると高架下に行かなければならぬような場所に立地していた。その影響なのか外壁がだいぶ汚れていた。ただその汚れは逆にいい味を出しているように感じた。この建築は、外からでもわかるカプセル1つ1つが部屋になっているそうだ。この建築で特徴的だと感じたのは、窓はすべて円形になっているということや、カプセル自体はすべて同じ形になっているのにわざと向きを変えているということだ。こうしたことからなんとなく遊び心のようなものを感じた。



このウォークラリーを通して一番感じたことは、自分が今まであまり今回見たような建築を見てきていないということだ。だからこれを機にもっとたくさんのいい建築を見てみたいと思った。それといい建築には必ず人を引き付けるなにかがあって、それは見てすぐわかるものもあれば、よく見たり中に入ったりしないとわからないものもあると感じた。

## 「建築ウォーカー」 10N(027) 大矢史織

先日専入セミの建築ウォーカーで銀座周辺の施設等建物を見に行きました。はじめに「東京国際センター」を見学しました。私ははじめてそこにいき、今までに見たことのない構造としていたのでとてもおどろきました。とても大きな空間の廊下に通路が走っているような構造となっていました。その通路を実際に渡り、アーチと自分で空間にうつるような感覚がして楽しかったです。しかし、このような構造は移動のことを考えると面倒だなと思いました。

次に銀座のおしゃれな建物をみました。三井モルタル銀座=Tビルには私の好きなペストリードラ-のピンク色でとてもかわいらしかったのです。『御光』は1932年に建てられたので建物から歴史を感じることができました。エレベーターは室内に中に入りました。上から階段とおりでいくとそれまでの階にらむに、雰囲気の空間が広がってとてもたのしかったです。

銀座にはおしゃれな店舗や店舗などたくさんあります。ナニャ商店のほかも銀座店は他の店舗よりもおしゃれにはれていておしゃれで品のある高級店といったような銀座のイメージにあふように配慮しているんだと思われた。この店に金額を下していくことはいいことだと思いました。

今回の建築ウォーカーとして、街歩きの楽しさを感じることになりました。建築を見てきて実際に建物をみにいくことはとても大切のことだとまたのじても、といふんす場所に行って様々なことを肌で感じたなと思います。

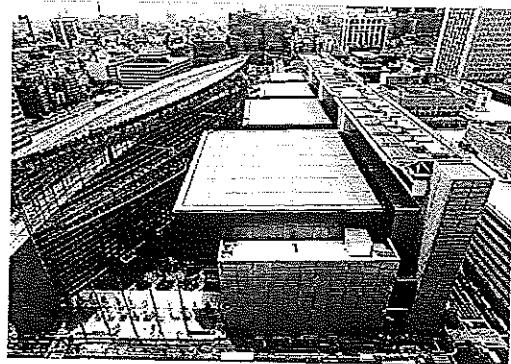
\*印刷体の不調に手書きと書いてあります。

## ウォークラリーのレポート

10N1028 岡田千明

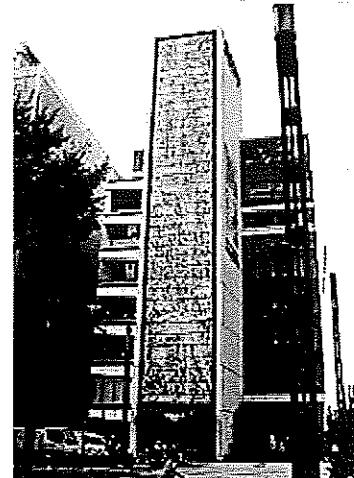
### ・東京国際フォーラム

東京国際フォーラムの外見は緩やかできれいなカーブを描いており、リーフのような不思議な形をしていました。建物の側面は半分がガラス張りもう半分は会議室などいくつか部屋があり、天井はガラス張りでした。ガラス張りの方の空間は中に入ると上には上の階と下の階をつなぐ細い渡り廊下がいくつもあり、それ以外はただ何もない空間だけがありました。その空間により東京国際フォーラムのなかはとっても広々としているように感じました。そして実際に渡り廊下の場所を歩いてみると、少し未来的な感じで、新鮮な感じがしました。建物の側面と天井がガラス張りになっているおかげで内部にも太陽の光がたくさん入ってきており気持ちよかったです。



### ・ソニービル

ソニービルは、外見は普通のビルより少し細いというイメージがありましたがそれ以外には特に変わりはないと思いました。しかし、内部の構造がとても魅力的だと思いました。ビル自体が大きな階段のようになっており、階段自体に店がある感じがすごく良く、すごい発想だと思いました。普通のビルは階段のための空間があるけれどもソニービルにはそれがないのでビルがスリムになっていたのだと思いました。この構造の方がビルの限られた空間を最大限にうまく利用しているように強く感じました。東京の都心の方はあまり広い土地がないのでこういう工夫が今後大切になっていくと思いました。



他にもデビアス銀座ビル、Dior 銀座、メゾンエルメスなどたくさんの現代の建築物を自分の目で見ることができとてもいいウォークラリーだと思いました。世の中には色んな発想をもっている人がいるのだと強く思いました。特にソニービルの内部の構造には一番驚かされました。そういう人を驚かせるような発想ができるようになりたいと思いました。

# Walk Rally 2010

## 坪井研究室

学籍番号 10N1029

氏名 岡田 凌

初めに連れて行ってもらった場所は東京国際フォーラムでした。ここは空間を存分に広く使っている建物でした。ガラスを敷き詰めている壁がある一方で、木で出来ている壁もあって近代的な雰囲気と自然の雰囲気を一つの場所で調和している感じがすごいと思いました。

ミキモト銀座2丁目ビルでは窓の取り付け方が今まで見たことのないような様子で設置されてたので驚きました。それに外からでは階層がわからないようになっていましたので通常の建物とは異なった異彩を放っていました。

デビアス銀座ビルでは歪んだ建造物にただただ驚きました。これ構造的に大丈夫なのかよ？と疑問に思うほどでした。構造力学的にどのようにになっているのか、多少興味を持ちました。

和光は初めて見る建物ではなく、ドラマや映画などテレビで目にしたことがあるはずなんですが、いざ実物を見ると赴きあるなあと東京に上京した実感を改めました。

メゾンエルメスではすりガラスで全体を覆ってる建物で下から見てみると全て同じさまなので目が少しばかりくらくらしました。二つの棟があるこの建物ですがその間に三角形をいくつも使ったオブジェがあり、なかなかカッコ良かったです。

ニコラス・G・ハイエックセンターは外装もさることながら、内装に驚きました。それは建物の中にある時計店の専用エレベーターがあり、その中に、各店舗の商品が紹介されているからです。その内装でひと際目を惹いたのは腕時計が天井から床までびっしり埋め尽くされている円のかたちをしたエレベーターでした。建築とはデザインという観点で類似するものがあるなと感じました。

中銀座カプセルタワーは私でも知っているあの黒川紀章が作ったと聞いただけで凄いと感じました。高層ビルが立ち並ぶ東京でこんなにも奇抜な建造物を建てるなんてどこからこのデザインのインスピレーションが浮かんだらうかと不思議に思わざるを得ません。

静岡新聞社は円柱を中心にして、それに四角い部屋をいくつかくっつけてある構造をとっていますが、第一印象は構造的にいつ壊れてもおかしくないなという感じがしました。しかし、説明を伺うとよく出来た設計で四角い部屋が非常にうまく支えられているんだと聞いた時には本当に驚きました。

導入ゼミ Walk rally 2010 坪井先生

10N1030 岡本 優

私の導入ゼミのグループは銀座周辺の建築物をみてまわりました。

まず、はじめに見学したのは東京国際フォーラムでした。構造の重心を片方に寄せていて、なにもない吹き抜け空間がものすごく大きかったです。面白いかたちをしていましたが、階段部分と会議室部分を両側にはっきりと分けているためほかのフロアへの移動が少し面倒そうでした。また、手摺の下の部分が熱くて見てみると蛍光灯がついていたのですが、夜に階段側をみるときれいで光るようになっているのかなと思いました。次に訪れる機会があればホールの中を見てみたいです。

歩いている間にみるブティックやスイーツの専門店なども、その店の雰囲気をつくりだすインテリアと外観をもっていました。なかでもわたしが一番気に入ったのは、メゾンエルメスの外のショーウィンドウでした。正面入り口には大きなウィンドウが二つあって、黒を基調とした赤ずきんちゃんをモチーフにした展示がされていました。それだけでなく、全面ブロック型のガラスで覆われた建物の側面にもところどころにも赤ずきんちゃんとエルメスの商品をうまくからめたディスプレイがされていて素敵でした。

ウォークラリーの初めに配られた冊子の写真を見て、内部の光が壁の穴から漏れ出して綺麗な外観になっていたルイ・ヴィトンのブティックを見るのを楽しみに思っていました。しかし、曇った昼間であったためと少し色がよどんでいたため思っていた姿とは違って残念でした。いつかちゃんと店が輝いている夜に見に行きたいとい思います。

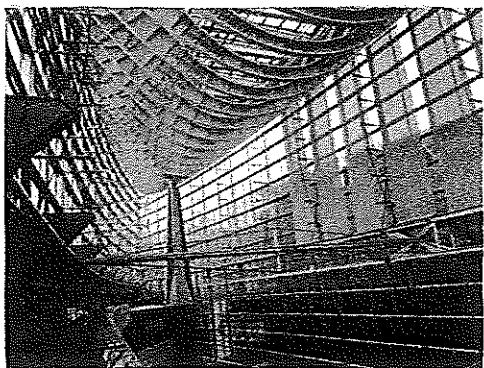
さまざまな建物をみてまわりましたが、なかでも内部空間が面白かったのはソニービルでした。各階ごとに店舗や展示室に分かれていながらも、店内が一階段状になってつながっていて、いちいち階段やエスカレーターを使う必要がないためほかのフロアに行きやすく、全部見てまわりたくなる造りをしていました。最近話題になっている3Dテレビを初めて体験しましたが本当に3Dになっていて楽しかったです。ただ、近くでしか見ていなかったので外観をちゃんと見ることができなくて少し残念でした。

今回ウォークラリーを行って、それぞれさまざまな個性や特徴をもった建物にでかい、惹かれるインテリアにでかい多くの刺激を受けました。どんな場所でも、訪れた空間の雰囲気を感じ、発見をし、楽しむことを大切にしたいと思います。

原入て、おはなし

## 建築 (アーキテクチャ) —

for *U. S. A. M.* 1860



は、たゞ、金の、事、だ。  
その、事、が、何、だ、か、  
何、だ、か、と、思、う、て、  
うり、と、思、う、て、  
うり、と、思、う、て、

1994-07-20 - 100% Moon & 100%  
Cloudy. The sky is very  
bright and the clouds are  
very dark. The sun is  
visible through the clouds.  
The clouds are moving  
very quickly. The sky  
is very bright and the  
clouds are very dark.  
The sun is visible through  
the clouds. The clouds  
are moving very quickly.  
The sky is very bright and  
the clouds are very dark.  
The sun is visible through  
the clouds. The clouds  
are moving very quickly.



# ウォークラリーの感想

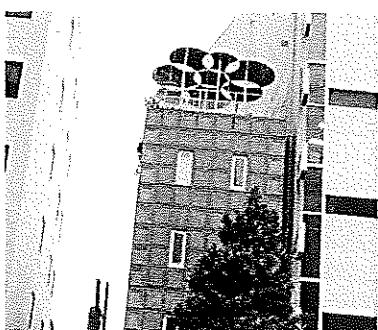
10n1016 井野隼人

私の所属する出口ゼミはお茶の水駅に集合し、御茶ノ水・神田・内堀周辺の「まち」を見て歩きました。今回のウォークラリーは大学の周辺でしたが、身近にこんな建築や風景があったなんてと感心しました。特にニコライ堂・南洋堂・国立近代美術館は歩いたコースの中でとても印象深い建物でした。

ニコライ堂にはOBの岡崎さんと一緒に見て回りました。特徴は緑青をまとったドームであり、これは中から見るとふちの部分が見えなくなっていて中からでも天井を見れば空が見えると錯覚させるためにこのような作りになっていました。日本では最初にして最大級の本格的なビザンティン様式建築の教会であるらしいですが、関東大震災で崩壊し復興した形が現在のニコライ堂なので、中の柱やステンドガラスはとても新しく見えました。

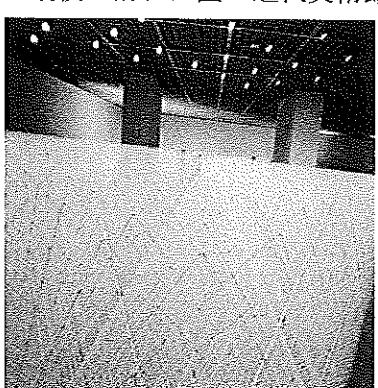


南洋堂は私が想像していた建物とは180度違って、一番びっくりさせられました。特に外観がもっと大きくて目立つデザインだと思っていたが、小さくて正方形基調でまとまっていました。しかし、一階部分はガラスで中が丸見えでとても面白い作りだと思いました。



ただ、中は想像通りガラス越しですが建築専門書しかない感じでした。早く知識を身につけてこのお店にお世話になれるよう頑張りたいと思いました。

最後に訪れた国立近代美術館は、この美術館自体がすごく変わった形でいてとても落ちついた感じがすごいと感じました。この日は企画展ギャラリーが催されていて、中でも、一番目立ってるんじやと私が勝手に思ったのが法政のデザインスタジオお教えている中村先生の「どうもろこし畑」でした。一番最初ということもありましたが、圧倒的な存在感と一つ一つの正確さが織り交ざってすごいと感じました。また、床に近い部分はちゃんと紙の棒が厚くなっていて、建築の構造としても見られて勉強になりました。



これ以外にも、神田のMビルや、リバティータワー、昭和館などいろいろな建物を見て回ってとても有意義な時間でした。特にOBの岡崎さんには何気ない坂道だったり、道のわきに咲いてる花の種類だったり、ちょっとしたマークにも本当の意味が隠されているな

ど、見どころはいっぱいある、つまりもっと視野と感性を広く深く持とうと教えていただきました。今回参加なされてた3・4年生のように私もまたウォークラリーに参加したいと思いました。

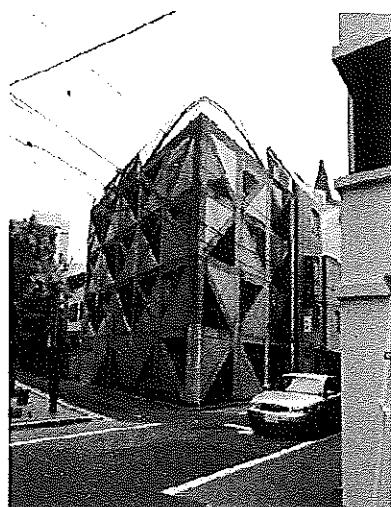
## 「ウォークラリーの感想」

10N1017 植草理香子 出口清孝ゼミ

○見学した建物：神田Mビル、ニコライ堂、お茶の水スクエア、南洋堂、昭和館、東京国立近代美術館(建物はどこにあるの?)

○感想

神田Mビル



設計者：伊東 豊雄

竣工：1987年3月

コンクリート打ちっぱなしと、正方形と三角形という基本的な形でシンプルにデザインされていましたが、周りの建物よりも目立っていました。側面には、透明な部分と三角形のアルミニウムパネルで覆われている部分があり、実際に見学したのは昼間でしたが夜に見れば中の照明などの光が漏れてビルが一種のイルミネーションのように見えるのではないかと思いました。

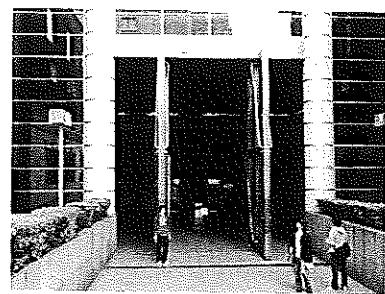
ニコライ堂



設計者：ミハイル・シチュールポフ  
実施設計者：ジョサイア・コンドル  
竣工：1891年3月

ドーム型の屋根と上部が半円形になっている壁により、教会内の空間がより大きく感じました。シャンデリアが普通のものよりも長く屋根から吊るされているのが珍しいなと思いました。また、屋根の外側が青緑色になっているのは塗料かなにかでその様な色になっているのかと思っていましたが、その色は屋根をつくるのに使われている銅が錆びて出てきた色と知り、驚きました。

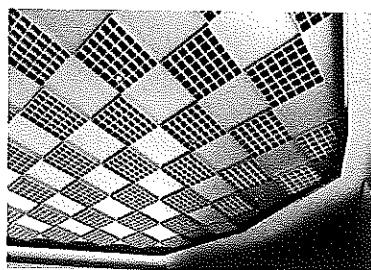
## お茶の水スクエア



設計者：磯崎 新  
竣工：1987年9月

ビルの壁のタイルは、見学したときは青っぽい色に見えましたが、本当はタイルの色は肌色であり、青っぽく見えているのは空の色が反射して見えているだけなのだと知り驚きました。そして、建物の正面にあった扉がとても大きく、何故このような扉をつくろうとしたのかと疑問に思いました。

## 昭和館



設計者：菊竹 清訓  
竣工：1999年12月

建物は巨大でありながら、意外と丸みを帯びているところや人の足のように見える柱から、その建物の柔らかさを感じました。また、2階の天井の模様が桂離宮の天井の模様に少し似ていると思いました。

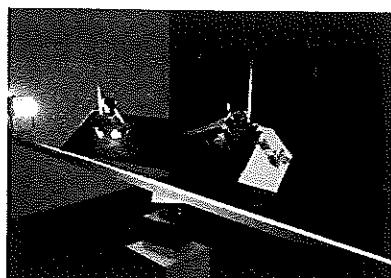
## 東京国立近代美術館(建物はどこにあるの?)

とうもろこし畑 —中山竜治—

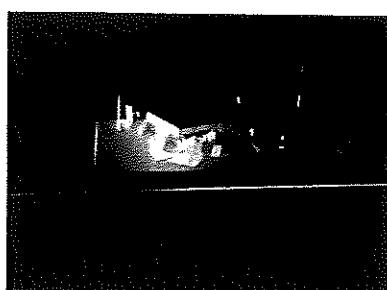
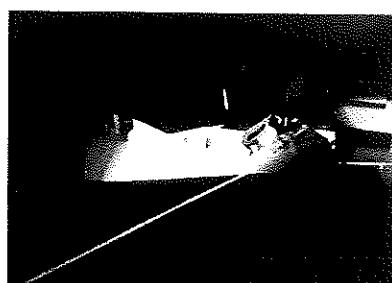


一度で見ただけでは全体を見ることなんか出来ないぐらいに大きく、紙だけでこんなものがつくれるとは思いませんでした。たくさんの線の重なりによって、ある一点と違う一点では構築物の見え方が変わっていて、どんなに見ても飽きないぐらいでした。

## ある部屋の一日 —菊池 宏—



回転する照明を使うことによって、その時の建物に対する太陽の光のあたりかたが表されていました。この模型に起こっている現象が実際に自分の家にも起こっているのだと考えると、不思議な感じがしました。



## 導入ゼミ ウォークラリーレポート

学籍番号 10N1018  
氏名 宇多善一

先日のウォークラリーで東京を散策し、東京の印象が変わりました。自分は、東京は高層ビルが立ち並び、自然がなく狭苦しいところだと思っていたのですが、道幅がしっかりと確保してあり、街路樹なども植えてあって、思っていたよりも緑が多かったと思いました。そして、なによりも皇居には、ほとんど手つかずの自然が残っていて、ちょっとした森のように感じられました。

また、〇Bの岡崎さんにいただいた資料で、東京には意外と起伏があることを知り、改めて街を歩くと、有名なブランドの店や大学の立ち並ぶ区域は、やや坂などがあり、道路もやや複雑に感じられ、少し離れたオフィス街では平坦な道にビルが並び、景観はもちろん、雰囲気も違って感じられました。

規則正しくというか、敷地内に四角くビルの建っているオフィス街に比べ、限られた区域に建っている建物は、なんとか空間を広げようと構造に工夫していることを知りました。道に沿って壁が鋭角に交わっていたり、道路との景観を近付けるために壁に模様を彫ったり、屋根のかたちを工夫したりとさまざまな建築物がありました。

ウォークラリーの道程は、御茶ノ水駅に集合してから、まずニコライ聖堂へ行き、次に街を散策しながら、有名な建築家の設計した建物を見て回り、皇居を訪れて、東京国立美術館を見学するといったものでした。最初に行ったニコライ聖堂では、同じキリスト教会でも、東京カテドラル大聖堂とは違った内装というか雰囲気で、お話を聞くと、キリスト教内でも宗派(カトリック、プロテスタント、正教会)により、異なるということ教えていただきました。

また東京国立美術館で、『建築はどこにあるの?』を見学し、さまざまな展示物をみて、建築はどこにあるのかを考えてみると、どの建築家の作品も、自分では思いつかないようなデザインで、作品もとても丁寧に作られていて感動しました。自分は、建築とはデザインを思いつくことや、それを実物に起こす技術にあるのではないかと思います。

このウォークラリーで学んだことは、一口に建築と言っても、地域や地形、その他の条件で構造や様式がさまざまで、それぞれの建物について、建築家がデザインや工夫をこらしているということです。また、東京はとても広い街で、いろいろな建物があり、しかも自然と共生しているということも学びました。自分が今まで持っていた東京のイメージよりも本当の東京は、建築や都市環境の教科書のような素晴らしい街でした。この体験を活かして、さまざまな建物を見て回り、いろいろな工夫や技術を知り、建築について、もっと興味を持ち、知識を増やすだけでなく、発想力などの感性も磨いていきたいと思います。

## ウォークラリー レポート 10N1019 内海光士郎

今回僕は、ウォークラリーを欠席したため、後日1人でコースを回りました。回った建物の順番は、ニコライ堂、南洋堂、東京国立近代美術館です。

まずは、ニコライ堂についてです。

ニコライ堂に到着すると、まず洋風な印象を受けました。調べてみると、ここは東京復活大聖堂教会と呼ばれる正教会の教会であることが分かりました。建物は、1つの屋根でまとめるのではなく、丸や円柱の形の屋根で構成されているのがおもしろいと感じました。

そして、建物の中を見てみると、最初に、この前見た東京カテドラル聖マリア大聖堂とは内装の感じが違うなという印象を受けました。同じ教会なのにニコライ堂は、カテドラル大聖堂より装飾が多く感じました。これも宗教の方針で少し変わってくるのかなと考えました。

ニコライ堂を見ると特に印象に残るのが、緑青のドーム型の屋根です。この建物の様式は、ビザンティン建築だと言われています。この様式ではドーム型が良く使われています。このドーム型の屋根に何か特別な意味や建築方法があるのか詳しく調べてみたいと思いました。

こういった宗教建築を設計することは、やはり住居を設計したりするのとは、全く別物なのか、または共通する点もあるのか気になりました。

次に南洋堂についてです。

南洋堂は、建築入門の授業で紹介されました。南洋堂は建築の専門店ということなので、また立ち寄ってみたいと思いました。

最後に、東京国立近代博物館に行きました。

ここでは、色々な展覧会が行われていました。特に印象を受けたのは、伊藤豊雄さんの多面体が連続して展開していく作品です。今回は五角形の形が使われていて、五角形は、四角形や三角形より広がりを持って展開していくし、六角形や七角形までいくと複雑になってしまうので、五角形はちょうどいいなと思いました。先日の建築入門の授業でも、新しいリサイクル箱を作る課題で、五角形を利用している人がいて、五角形の形をした箱を必要に応じて連続してつなげていく作品なのですが、やはりこの場合でも五角形が一番適していると感じました。

アトリエ・ワンの作品もおもしろいと思いました。

プロセスを見てみると、待ち合わせの場所に動物園ができたら良いという単純なアイデアから、どんどんとアイデア膨らませていく過程がおもしろいと思いました。

こういった展示品を作るにしても、図面にしたり模型を作ったり色々試していることが分かりました。しかし建築物を作るよりはお金などがかからないので、試行錯誤を色々していて楽しそうだと思いました。

完成した作品は、動物のフォルムがしっかりととしていてすごいなと思いました。竹で

あそこまで綺麗なカーブを作っているのがすごいなと思いました。そして、やっぱり竹は涼しげで夏の感じを楽しめるのが良いなと思いました。

やはり作品は、作っていくまでの過程がおもしろいと感じました。

以上でウォークラリーのレポートを終わります。

## ウォークラリーを終えての感想

10月10日 梅津 紗

御茶ノ水から徒歩で移動するのだから、「たくさん歩くんだ」と気を張って歩き出したウォークラリーでしたが、思ったよりもあつという間に時間は過ぎてしまって、疲れたと思う暇もないほど充実した時間でした。

このウォークラリーで、私は日々の生活の中での建築というものに対する見方を、OBの方や先輩方に教えて頂きました。

私は今まで、何か一つの建築に対して向き合うとき、その建築の設計に対するコンセプトというものは注目しても、その建築が今に至る過程というものに目を向けることをしていませんでした。この建築家はどのような哲学を持っていて、その建築はどういう意図で造られたのか。そのようなことを理解しようと努めることは建築を学ぶ上で、重要なことだと思っています。しかし、どんなにその建築家が哲学を持っていようと、素晴らしい意図があろうと、建築は、現実世界のある一定の条件に縛られた場所に建つという事実を忘れては成り立たないのだなど、実際に街歩きをして感じました。

例えば、伊藤豊雄氏設計の神田Mビル。外見として、屋上部分の三角形を多用した連続的な凹凸がとても面白いなど、まず感じましたが、先輩方の説明でさらに興味深く感じました。それは、その直方体を切ったような三角形の連続した屋上が、周囲との外観という理由での高さ制限によって生まれたという事実です。その制限あっての外



▲よく見ると、確かに隣の建物と同じ高さのところから天井面の切り落としが始まっていた

観というところが私にとっては驚きでした。伊藤豊雄氏は今や世界的な建築家で、どんどん新しい構造体を持った建築を生みだしています。そのような人の造った建築なのだから、最初から屋上の凹凸の形というものは何か自分の哲学があって、そこが発生源で出来上がったのだろうと勝手に予想していたのです。それが、その発生源が場所性なのだと分かったときに「これが、先生方がおっしゃる『建築には場所性というのが大切なのだ』ということなのかな」感じ、

少しでもその感覚を味わうことが出来たことに喜びを感じました。

その他には、御茶ノ水スクエアやニコライ堂に使われている材料の話。『御茶ノ水スクエアの壁にはどうして青いのか分かる？それは空の青が映っているからなんだよ。』『ニコライ堂の屋根の青緑はとてもきれいだけど、あれは言ってしまえば銅の鑄だよ。』とその建築に使われている材料のことまでO Bの岡本さんは教えてくださいました。そこに青空があるから青い外観と、銅は加工がしやすいからという機能的な側面から生まれた、ある意味偶然の銅の青緑の美しさ。それはもしかすると、哲学や考え方された設計の末に生まれたものかもしれません、現実のある条件の下で可能な「場所性」を含む美しさなのではないかなと私は感じました。

電車に乗っていると、あっという間に通り過ぎてしまういつもの街並み。の中にも、興味深い建築や風景は溢れていて、私自信が五感を研ぎ澄ましていれば、日々の中で発見することはたくさんあると、このウォークラリーを通して学ぶことが出来ました。これから、大学在学中、そしてその後も身近なことから少しづつ感じ学んで行きたいと思います。

# 導入セミ

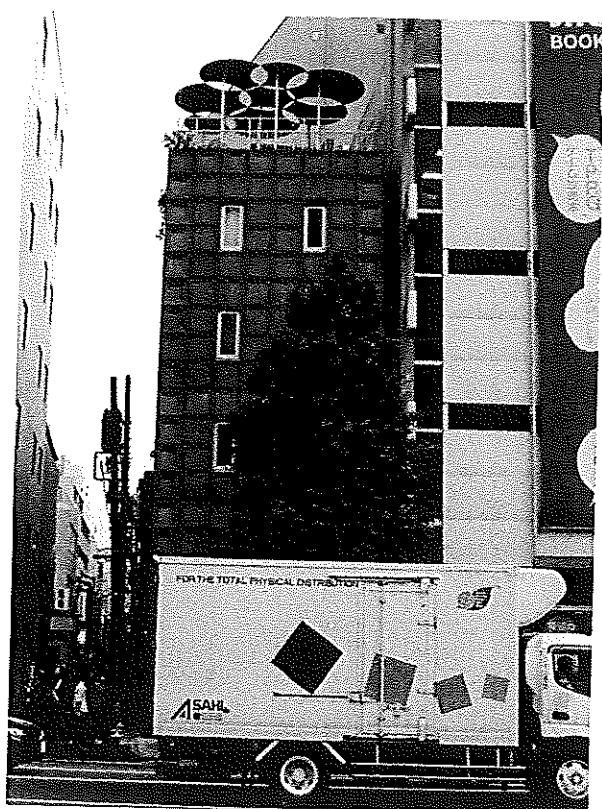
10N1021

榎 祐斗



## <ニコライ堂>

- ・ビザンティン様式
- ・教会の平面図は、十字架型でオーソドックスな形である。
- ・十字架のクロスしている部分が祭壇や座席になってしまる。
- ・柱や模様もキリストの様式により4種類に変化する。



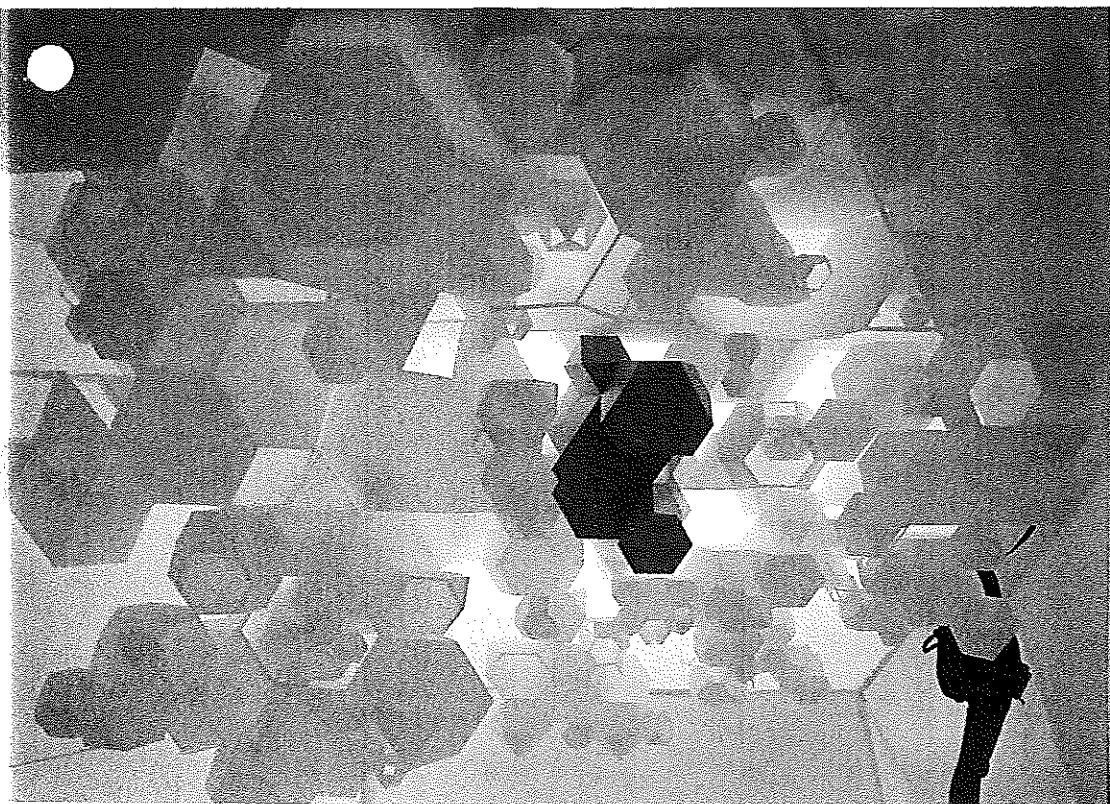
## <南洋堂>

- ・建築専門の書店。
- ・建物の上にあるステンレス板のようなものが赤いのは、カーテンの色を反射させ、視覚に入るようにしている。



### 〈お茶の水スクエア〉

- ・元々建っていた下層部の上に高層棟がのった建物
- ・玄関は4階まで吹抜けになつた内部の天井高にあわせとても大きな回転式の扉になつてゐる。



### 〈東京国立近代美術館〉

- ・内部だけでなく屋外にも美術作品が多くあり、とても刺激的である。